

きつねとねずみ

ピアンキ 作

内田莉沙子 訳

山田三郎 絵

福音館書店 1967年 743円



スコップをかかえたねずみたちを見て、何をしているのかときつねがたずねました。すると、ねずみは、きつねからかくれるための巣穴を作ったのだと答えます。テンポのよい会話形式で、ねずみを食べようとするきつねと、用心深いねずみの知恵比べが展開していきます。短い中にもスリルがあり、それでいて、あたたかなユーモアを感じさせるお話です。

きんぎょがにげた

五味太郎 作

福音館書店 1982年 743円



ピンク色の金魚が逃げだしました。カーテンの水玉模様、きれいなお花、色とりどりのキャンディにまぎれて、金魚がかくれています。子どもたちは、金魚を探すのに夢中になります。「きんぎょがにげた。」「どこににげた。」「こんどはどこ。」というリズムカルな言葉がくり返される、色鮮やかでユーモラスな絵本です。

くだもの

平山和子 作

福音館書店 1981年 743円



子どもの大好きなくだもの絵本です。すいか、もも、その次はぶどう、というふうに、まるごとのくだものが描かれています。となりのページには、すぐに食べられるように、きれいにむかれたくだものが「さあ、どうぞ。」と、こちらに差し出されています。くだものは、細部まで丁寧に描かれていて、思わず手をだしたくなります。